

旬刊政経レポート

8/25

昭和52年10月14日第3種郵便物認可 令和7年8月25日発行 発行定日・毎月5.15.25日(旬刊)

※主要目次※

- 2……………鳥取メカシステム 太陽光発電システムを強化
- 3……………米子西日本 工場新設、需要が高まるEV部品を製造
- 4……………社内業務を見える化、効率化 オグラ
- 6……………トリベイ 二次交通実証事業で市内6カ所にシェアサイクル
- 8……………北溟産業 大阪・関西万博でドローン技術を紹介
- 15……………県内企業決算概況

この街に生まれ、この街に生きる
いまでも、これからも

 ふれあい大好き
鳥取信用金庫

<https://www.shinkin.co.jp/torishin/>

 この街と生きていく。
もっと大きく
あなたの未来 

 **倉吉信用金庫**

<https://www.kurashin.co.jp>

～健康へのあくなき挑戦～

健康茶・健康食品の
企画製造・OEM受託

 **株式会社 ファイナル**


<https://finarl.co.jp/>

日本公庫は、中小企業・小規模事業者・農林漁業者の
皆様のさらなる発展を応援します。

つなぐ。支える。
事業を、地域を。

 **日本政策金融公庫**

鳥取支店・米子支店

日本公庫 検索 <https://www.jfc.go.jp/> 

「地域を支え、明るい未来を創造する
コンサルティングバンク」を目指します。

TOTTORI BANK  青い鳥の銀行です。
鳥取銀行

<https://www.tottoribank.co.jp/>

地域の夢、お客様の夢をかなえる
創造的なベストバンク

 **ごうぎん** 

<https://www.gogin.co.jp/>

社内業務を見える化、効率化

オグラが挑むシステム・AI活用

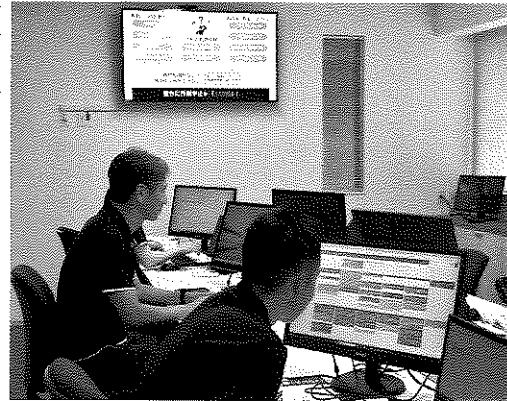
ポンプ工事、点検修理などを手掛ける㈱オグラ（鳥取市千代水一―一―二三、小倉豪代表）では現在、事務・経理から現場管理、労務・人事管理に至るまで、既存のクラウドサービスや自社でカスタマイズしたアプリケーション、AI技術などを活用し、社内業務のデジタル化を進めている。

これにより、ヒューマンエラーや不要なタイムラグを省くとともに、柔軟かつ迅速に業務を進める体制を整えることで、さらなる効率化、働き方改革につなげようとしている。また、先端技術を積極的に取り入れる姿勢をPRすることで、自社のイメージ向上と若手人材の確保につなげることも目指している。

以前は同社では、見積書や報告書、契約書などの書類は主にエクセルなどで手入力、保管はフォルダごとにまとめるなど工夫はしていたが、情報アクセス



3年前に新築移転した本社外観



手前のモニターに映るのは共有された全体のスケジュール、奥のモニターは情報共有に活用されている。

がスムーズだったとは言えず、また、作成したデータや客先からのデータに一貫性や連動性がなく「いま誰が何をやっている、どの工事がどんな状況かなど、すぐにはわからない」状況もあったという。

「まずは基幹システムの導入が必要だ」として、約7年前に建設業向けの管理システム『レッツ原価管理』（㈱レッツ）を導入。受発注や請求管理などをシステム化した。

その後、社内ルールの統一化を進めた後、RPAツール「ロボパッド」（㈱FCE）を稼働させるなど改良を加えた。昨年度からは、管理システムと連動する形で、業務アプリ作成のキントーン（サイボウズ㈱）を使用し、受注や在庫管理、業務に必要な書類の作成など、自社の業務に合わせてカスタマイズしたアプリを作成。多岐にわたる業務を見える化した。

アプリのカスタマイズのほか、社内業務のデジタル化にメイン

で関わっている、同社営業部の岡野昌幸氏は「（キントーンは）専門知識がなくても直感的に作れる。社長のイメージをいかに形にするかを心掛けながら作っている」と話す。

現場での使い勝手を重視し、スマホ対応の入力画面も整備。移動先や作業状況の共有も即時に行える体制にもしている。

同社ではさらに、キントーンの拡張機能で文字の自動読み込みを行う「A-I-O-C-R」を導入。これにより、客先から提出される請求書など、紙ベース書類の読み取り及び出力作業が自動化され、各種アプリ、システムとの連動がさらにスムーズになった。

このほかクラウドストレージ「Box」と連携。BoxのAI機能を活用し、社内データから社内外向けに使用する各種書類の自動生成など、情報アクセスおよびデータ活用をスムーズにしようとしている。

また、AIにより会議などの議事録も時間をかけず作成できるようにするなど、情報共有の速度と精度が格段に増している。とはいえ、業務のデジタル化はまだ道半ば。「全てがスムーズに進んでいるわけではないが、岡野が現場と話し合いながら、さらに使いやすくアプリのカスタマイズをしているため、最初はデジタル化に及び腰だった従業員も徐々に足並みを揃えてくれている」と小倉代表。

また、一連の業務効率化は、現場作業後の事務作業削減など従業員への負担軽減にもつながることから、今後の人材確保に向けたアピールポイントにもしていきたい構えだ。

今後はこれまでデジタル化した範囲に加え、労務管理や人事

食卓に世界を、食卓に山陰を
TOKUDA
 株式会社徳田商店 <https://www.ktokuda.co.jp/>

外から、大手を含む多くの企業に活用いただき、県内の宇宙産業を盛り上げています。今後は県内からも宇宙産業に関わる企業を増やしたい」と今回の趣旨を語った。

講演会ではまず坂氏が事業所の紹介を行った。同社は創業8年目の宇宙スタートアップで、超小型衛星の設計・製作及び運用サービスの提供を手がける。これまでに14機を運用、昨年には、花巻北高校

が携わった人工衛星「YODAKA」の開発・製造・運用を手がけた。

低コストで高品質のデータ収集が可能な超小型衛星をメインに、地球観測から通信、位置情報のほか、月から深宇宙探査まで、様々なミッションに挑み、企画・設計から運用・サービス提供まで、打ち上げ以外を一貫通貫で行っているのが特徴だ。

坂氏は「各フェーズで多様なパートナーと連携しており、特に製造フェーズでは量産体制を構築中、非宇宙の国内製造業者と連携の上、サプライチェーンを構築。早期に、年間100基以上の製造を視野に入れていく」と説明した。

続いて柿原氏は、同社が手がける衛星の技術的な側面を解説。宇宙利用という特殊性から小型化、軽量化が重要で、打ち上げ

OPAL

オパール
 高齢者専用ケア付マンション
 訪問介護デイサービス

介護サービス専門
とっとり福祉サービス(有)
とっとり福祉マンション(有)
 鳥取市行徳3丁目317 ☎0857-39-1060

鳥取県主催の「とっとり宇宙ビジネス・ミニ商談会」が7月24・25日に開催され、初日は鳥取市浜坂のSAND BOX OTTORIで招聘企業による講演と個別商談会、二日目は企業訪問と商談が行われた。

初日の講演会では、招聘企業である(株)アークエッジ・スペース(東京都江東区)より、執行役員で先端研究開発事業部部長の柿原浩太氏、同事業部の渋川季裕氏、坂奈緒子氏の3名が、事業所紹介から技術的な解説、取引の希望内容などを紹介した。

冒頭、主催者を代表して鳥取県商工労働部産業未来創造課の和田淳秀氏があいさつ。「鳥取砂丘月面実証フィールド「ルナテラス」がこの7月で2年。県外から、大手を含む多くの企業に活用いただき、県内の宇宙産業を盛り上げています。今後は県内からも宇宙産業に関わる企業を増やしたい」と今回の趣旨を語った。

とっとり宇宙ビジネス・ミニ商談会 幅広く多様な強み求めます



左から柿原氏、渋川氏、坂氏

デジタル化による業務効率化や経費削減のノウハウを共有出来たらという思いもある。興味がありましたらご連絡ください」とした。

時の衝撃や宇宙空間に耐えうる品質、信頼性が必要だとしながらも「当社では低コストによる開発を目指しており、条件に耐えうるものであれば極力民生品も活用する。また、短期ミッションの場合は耐久性を妥協するなど柔軟に進めている」という。

そのうえで衛星の構造部分や各種制御部門それぞれの現状や課題を説明。参入や連携を目指す商談会参加者らへのヒントとなる多くの情報を提供した。

そして最後に渋川氏が、現時点で同社が求める素材、商品、技術などを紹介。小型化、高性能化を目指している「アンテナ」や、今まさに開発パートナーを探している段階だという、特定周波数以外の信号をフィルタリングする部品のほか、切削・鍍金、樹脂加工、塗装など、非宇宙企業の特幅広い商品・技術が必要としていると説明した。

「それぞれの企業の強みなどを教えていただき、それならこの開発の部分と一緒に」と提案できれば、様々なプロジェクト、その中でも様々なニーズが出し合いながら連携させていきたい」とした。